

アルジェリア・ドキュメンタリー映画祭 マレク・ベンスマイル監督特集

2009年12月19日(土)・20日(日) 上智大学四ッ谷キャンパス

映画は日本語または英語字幕つき。交流会は逐次通訳あり。入場無料



UNLIMITED AND CIRTA FILMS PRESENT

China is still far

A film by Malek Bensmail

全体プログラム

12月19日(土) 会場:2号館5階 509教室

10:00-11:30 カイナ・シネマ最新作品集(日本語字幕)
12:30-13:00 プリーフィング(『ブーディヤーフ』解説)
13:00-13:20 『デモクラシア』(日本語字幕)
13:30-14:30 『ブーディヤーフ 暗殺された希望』
(日本語字幕)

12月20日(日) 会場:2号館5階 508教室

10:00-10:10 開会挨拶
10:10-12:00 『発狂』(英語字幕)
13:00-13:30 プリーフィング(『中国はいまだ遠し』解説)
13:30-15:30 『中国はいまだ遠し』(英語字幕)
15:45-17:15 ベンスマイル監督との交流会(通訳つき)

20日13:30~

最新作『中国はいまだ遠し』上映(英語字幕つき)
+ベンスマイル監督との
交流会(通訳つき)

映画概要:イスラームの預言者ムハンマドは言った。「知識を求めよ。たとえ中国にあらうとも」。しかし、アルジェリアの子供たちにとって、中国はなんと遠いことだろう。

アルジェリア東部の山深い小さな村、ガシーラ。この土地で、1954年11月1日、フランス人の小学校教師夫婦が襲撃された。教科書はこれを、栄光のアルジェリア独立戦争の口火を切った軍事作戦と教える。

カメラが村に分け入り、人々の暮らしを、小学校の授業風景を撮る。村人たちは、11月1日の出来事について語り始める。公認史観の神話は解体されてゆき、教えられる歴史と生きられる歴史の齟齬が、浮き彫りになっていく。

マレク・ベンスマイル

1966年コンスタンチヌ(アルジェリア)生まれ。パリ映画学院卒業後、アルジェリアを舞台としたドキュメンタリー作品を撮り続ける。代表作は、90年代のイスラーム主義とテロの時代を扱った『ALGERIE(S)』(ティエリー・ルクレールとの共作、2002)、精神病院を取材した『発狂』(2004)など。

問い合わせ:上智大学アジア文化研究所
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
TEL (03)3238-3697 FAX (03)3238-3690
Mail i-asianc@hoffman.cc.sophia.ac.jp



アルジェリア・ドキュメンタリー映画祭 マレク・ベンスマイル監督特集

2009年12月19日(土)・20日(日)@上智大学四ッ谷キャンパス

プログラム

2009年12月19日(土)	
10:00-11:30	カイナ・シネマ最新作品集(A) <日本語字幕>
12:30-13:00	ブリーフィング: 渡邊祥子(アルジェリア近代史)による『ブーディヤーフ 暗殺された希望』解説
13:00-13:20	マレク・ベンスマイル特集①『デモクラシア』(B) <日本語字幕>
13:30-14:30	マレク・ベンスマイル特集②『ブーディヤーフ 暗殺された希望』(C) <日本語字幕>
2009年12月20日(日)	
場所: 2号館5階 508教室	
10:00-10:10	開会挨拶 私市正年(アルジェリア史. アジア文化研究所所長)
10:10-12:00	マレク・ベンスマイル特集③『発狂』(D) <英語字幕>
13:00-13:30	ブリーフィング: 鶴戸聡(マグリブ文学)による『中国はいまだ遠し』解説
13:30-15:30	マレク・ベンスマイル特集④『中国はいまだ遠し』(E) <英語字幕>
15:45-17:15	マレク・ベンスマイル監督との討論会(司会・鶴戸聡)

※映画には日本語または英語字幕がつきます。20日の討論会は逐次通訳つき。
 ※入場無料。事前予約不要。

作品解説 (B-Eはマレク・ベンスマイル特集)

A. カイナ・シネマ最新作品集

新世代の映像作家育成のために活動しているフランスのアソシアシオン「カイナ・シネマ」が2008年にアルジェリアで行ったワークショップの参加者3人の作品を紹介。若者の目が見た、アルジェリアの今。(日本語字幕作成: 鶴戸聡)

『ハルギン・ハルギン』

メリエム・アシュール=ブーアッカーズ/2008年/24分
 ...欧州への不法入国。若者たちは、なぜ脱出したがるのか？

『ヤラネグ』

アミーン・アイト=ワレット/2008年/19分
 ...ベルベル文化運動と、郊外の若者たちの活動を描く。

『ここはコンスタンチヌ』

バヒーヤ・ベンシェイフ=エル=フェグーン/2008年/30分
 ...古都をめぐる記憶・歴史・アイデンティティ。

B. 『デモクラシア』Démokratia

2001年/フランス/17分. フィクション

とある寒い国の軍事政権。独裁者と彼を取り巻く軍人たち。権力をめぐる謀略が錯綜する中で、独裁者は閣僚たちに銃を突きつけられ、最期の瞬間を迎える...

ロシアのレンフィルム・スタジオへの留学歴を持つベンスマイル監督。ロシア・アヴァンギャルドを髣髴とさせる本作の舞台は、北アフリカか、ユーラシアの北端か。どこにでもある政治的寓話。

C. 『ブーディヤーフ、暗殺された希望』Boudiaf, un espoir assassiné

1999年/アルジェリア=フランス/60分. ドキュメンタリー

1992年1月、政治的危機のさなかにあったアルジェリアに、忘れ去られた革命の英雄が帰ってきた。73歳で、亡命者から突如大統領となった彼の目的は一つ、自らがその生みの親の一人である政権党・FLNを解体することだった...
 モロッコ亡命から27年ぶりに帰国し、大統領となったムハンマド・ブーディヤーフは、その率直さによって大衆的な人気を獲得した。しかし彼は、大統領就任から6ヶ月足らずのうちに、アンナバにおける演説の最中に暗殺される。暗殺をテレビの生放送で目撃した国民は、ブーディヤーフを暗殺したのは、彼を権力の座に据えた軍部であると噂した。

当時の閣僚、ジャーナリスト、社会学者、近親者、外交官らへのインタビューを集め、「暗殺された希望」の軌跡をたどる。

D. 『発狂』Aliénations

2004年/アルジェリア=フランス/105分. ドキュメンタリー

コンスタンチヌ郊外の精神病院。そこで生活する人々は、狂気と正常、逸脱と治癒を行き来しつつ、他の患者、医者、家族、社会と向き合う。カメラが患者たちの日常を淡々と写し取る中で、患者たちの悩みや怒り、閉塞と渴望が、彼ら自身によって語られる。

患者たちの個人的なドラマに、貧困、失業、家庭崩壊、暴力、女性たちの閉塞状態といった、アルジェリア社会の抱える問題が影を落とす。精神の病は、個人の肉体に憑依した社会の病でもある。

E. 『中国はいまだ遠し』

La Chine est encore loin
 2009年/アルジェリア=フランス/120分. ドキュメンタリー

イスラームの預言者ムハンマドは言った。「知識を求めよ。たとえ中国にあらうとも」。誰もが、真実を知ることを望んでいる。しかし、アルジェリアの子供たちにとって、中国はなんと遠いことか。

アルジェリア東部の山深い村、ガシーラ。この地で、1954年11月1日、フランス人の小学校教師夫婦が襲撃された。教科書はこれを、栄光のアルジェリア独立戦争の口火を切った軍事作戦と教える。

カメラは村に分け入り、人々の暮らしを、小学校での授業風景を撮影する。村人たちは、11月1日の出来事について語り始める。公認史観の神話は解体されてゆき、教えられる歴史と生きられている歴史の落差が、浮き彫りになっていく。

「映画による民主化」の実践。